



教育力向上福岡県民運動
シンボルマーク

異年齢交流活動（縦割り活動）

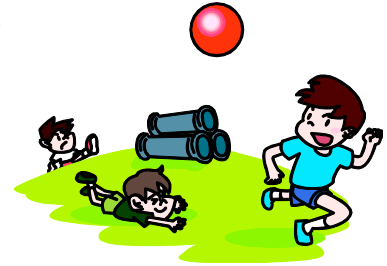
～ 小学校の取組 ～

平成22年3月



学校の休み時間や下校後の子どもたちの遊び集団の構成について目を向けてください。同年齢の子どもたちだけで遊んでいる姿が多くありませんか。以前は異年齢で構成された遊び集団があり、いつも遊んでいる場所に行けば誰かがいて、そこで遊びが始まる、ということが日常の様子でした。その異年齢の集団で遊んだり、体験したりしたことで得られた力は、今では簡単に得られない貴重なものです。

今回は学校や子ども会等で異年齢集団を意図的に作り、交流活動をするために留意するポイントをまとめました。



1. 異年齢交流活動の意義

同年齢であれば自分たちの発達段階や体力、興味関心に即した遊びができることや、日常一緒にいることが多く気心が知れていて余計な気を遣わなくても良いということがあるでしょう。また、遊ぶための“約束”をとりつけやすいこともあるでしょう。

しかしながら、異年齢で遊んだり活動したりすることで、同年齢同士の活動よりも次のような効果が得やすくなります。

自尊感情

- ・「6年生はすごいな」
- ・年下の子からの憧れや頼られることで自分への自信を持つ

学ぶ意欲

- ・「お姉ちゃんのようにになりたい」
- ・追いつき追い越そうと努力する

体力等

- ・「お兄ちゃんのようにになりたい」
- ・みんなで体を動かすほうが楽しい

規範意識

- ・子どもたち自身が決めた遊びや集団のルール、問題解決力
- ・年下の子への思いやりを持つなど年齢の違いを考慮する

その他にも…「コミュニケーション能力」「リーダーシップ」
「遊びや自然とのふれあい方の継承」



2. 異年齢交流活動を仕組むコツ



① 1回限りの活動ではなく継続して活動できるようにしましょう

グループで初めて顔合わせをして、互いに気を遣いながら活動を終えるなど、1回目は大きな喜びやトラブルがなく活動が終わることが多くなります。2回、3回と回を重ねていくたびに、緊張感が薄れて、子どもたちの個性が発揮されてきます。その中で、達成することに喜びを感じたり、また多少のトラブルが起こり、それを解決したりすることで仲間意識や所属感が高まります。学校では、児童集会や行事だけで複数回というのは大変です。清掃活動等の日常生活でも継続できればいいですね。



② 楽しむ活動だけでなく、学校や地域に役に立つ活動も取り入れましょう

人は誰かの役に立って、喜ばれたり、ほめられたりすると自尊感情が高まります。ボランティアマインドの育成も兼ねて、学校や地域に役に立つ清掃活動や交流活動を加えていくことも効果的です。異年齢で行えば、それらの活動は継続・発展が考えられます。終わった後はしっかりほめてください。



③ グループの6年生をできるだけ一人にしましょう

子どもにはいろいろなタイプがいます。人前で話すのが得意なタイプ、苦手なタイプ。リーダーシップを取れるタイプ。自信が持てずに人に頼ってしまうタイプ。でも、それぞれが素晴らしい個性を持っています。人に頼ってしまうタイプの6年生もグループに6年生が一人の場合、「自分がやらなければ」と感じますし、先生や大人のちょっとした支援があれば、グループをうまくまとめることができます。新たな一面を見つけられると同時に子どもの自信にもつながります。6年生の児童数とグループ数等様々な条件があるでしょうが、できるだけ一人に任せましょう。



④ グループのルールを決めましょう

グループも一つの社会です。みんなが安心して活動するためにはルールが必要です。そして、ルールを自分たちで決めたら、そのルールを大切にしようとしています。そのためにルールを決めさせてください。「みんなを待つ」「笑顔でいよう」「みんなを大切にしよう」でもいいでしょう。上級生が決めるのではなく、みんなが意見を出し合って、みんなの了解のもとに決定しましょう。決定していくプロセスも大事にしてください。規範意識を育む一歩にもなります。



⑤ 下級生の意見を聞く機会を設定しましょう

活動の計画や実施等においては、上級生が中心になって進めていくことが多くなりますし、それを期待するのも当然です。しかし、必要に応じて上級生が下級生に意見を求めるようアドバイスをしましょう。「〇〇ちゃん、どうしたいの?」「□□君、どう思う?」「これでいい?」が一例です。

低学年の子どもたちは、最初はよくわからないかもしれませんが、合意形成をしていくことを自然と学べるようになり、上級生を手本として同学年の話し合い活動を上手に進められるようになります。



⑥ 子どもたちの力でチャレンジさせるようにしましょう

活動にあたっては、上級生のリーダーシップを期待し、できるだけ見守り任せましょう。失敗してもそれを責めるのではなく、できなかった理由を考え、試行錯誤しながら次回に生かすよう支援しましょう。特に自分たちで決めた活動は何回もチャレンジさせることが必要です。すんなりとうまくいくよりも何回もチャレンジして達成したときに良い効果が生まれることが多くなるものです。

また、下級生にも役割を持たせたり、4・5年生にリーダーの機会を与えたりして、それを果たす体験をするとグループの力がより向上します。



⑦ 良かったところを認め、特にリーダー（上級生）をほめましょう

活動中はグループの良いところを見つけるよう意識するとともに、活動後は良かったところを具体的にほめましょう。グループみんなはもちろんですが、特にリーダーとして頑張った6年生をほめることが大切です。ほめられた6年生だけでなく、他の子どもたちへの意識付けにもなります。

縦割り活動の事例

【学校】

- <集会活動> 朝の児童集会、縦割り班の全校遊び（児童会や6年生が企画）
全校縦割りなわとび集会 等
- <日常生活> 給食当番活動、清掃活動
- <学校行事> 全校縦割り駅伝大会、遠足 等

【子ども会等】

- <日常活動> 遊び活動、清掃活動
- <行事> 行事計画、敬老会、キャンプ活動（野外炊飯、オリエンテーリング等）、地域清掃活動、地域伝統行事 等

福岡県教育庁教育企画部企画調整課 教育力向上対策室 TEL 092-643-3882
教育力向上福岡県民運動ホームページ <http://www.fukuoka-kenminundou.jp>

※ このリーフレットは、上記ホームページからダウンロードできます。そのまま（縮小可）印刷して配布、学校・学年通信に一部抜粋・引用して配布、学級懇談会等資料として配布するなどして有効に活用してください。